

## 「有機農業研究者会議 2022」開催要領

「有機農業研究者会議 2022」実行委員会

### 趣 旨

本年7月、農業の環境負荷低減を目指す「みどりの食料システム戦略」を推進するための「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」が施行されました。化学肥料や農薬に頼らず、自然のしくみを活かした農業を推進する機運が高まり、有機農業研究者会議が果たしてきた有機農業技術情報の交流の場への期待も増しています。

そこで今年も国、地方自治体、大学および民間の研究者など有機農業の試験研究に従事または関心のある方々同士や有機農業実践者との情報交流を行える場として、「有機農業研究者会議 2022」を開催します。

今回は、新型コロナウイルスの感染症の拡大を考慮しオンライン方式（Zoom ウェビナー）で開催します。また、オンラインの特徴を生かし、都道府県、関係法人などにパブリックビューイング形式の参加を呼びかけ、全国各地から参加できるようにします。なお、会議終了後の動画の配信は行いません。

開催内容は、第1部では有機農業技術の横展開と販路の拡大への課題についての基調講演と実施者の事例発表と技術普及への課題を、第2部では農研機構などから実践技術および最新技術を活用した雑草防除へのアプローチを紹介します。なお、ポスターセッションおよび情報交換会は実施しません。

- 日 時** 令和4年10月19日（水）10時から17時まで
- 会 場** （国研）農研機構中日本農業研究センターよりオンライン配信を行う
- 主 催** 「有機農業研究者会議 2022」実行委員会
- 共 催** （国研）農研機構・中日本農業研究センター、（国研）農研機構・植物防疫研究部門、日本有機農業学会、NPO 法人有機農業参入促進協議会
- 後 援** 農林水産省
- 参集範囲** 国立研究開発法人・地方自治体・大学および民間の有機農業の試験研究者、有機農業実践者、普及員・行政担当者、JA など農業関連団体関係者
- 参加費** **個人参加**（家族での視聴可）：2,000円（資料集のPDFファイルを配布）  
**パブリックビューイング会場**：10,000円（団体名で申込。会場に応じて何人でも参加可能。会場費などパブリックビューイング形式を採用される場合にかかる費用は、お申込みいただいた団体で負担。資料集のPDFファイルを事前に送付するので、必要数を印刷して利用可）  
**印刷した資料集**：1,000円（送料含む。10月5日までの申込者に、会議開始前日までにお手元に届くように発送。パブリックビューイング会場で複数冊必要な場合は、1,000円×冊数分の金額が必要）
- 主な内容** 研究事例報告および有機農業実践者の事例報告、話題提供をもとに、講師、参加者間で意見交換ができるようにします。
- 参加申込** 申込用紙に必要事項を記入の上、E-mail または FAX にて下記までお申し込みください。  
「有機農業研究者会議 2022」実行委員会事務局  
担当：藤田正雄・石川 晃（NPO 法人有機農業参入促進協議会 事務局）  
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-5-12 偕楽ビル（新末広）3階  
株式会社マルタ内  
TEL：050-5362-1815 FAX：050-3457-8516 E-mail：office@yuki-hajimeru.net

## 日 程

10月19日(水)

受付 (9:30~10:00)

---

開会あいさつ (10:00~10:15)

---

中村 ゆり (国研) 農研機構中日本農業研究センター)  
千葉 康伸 (NPO 法人有機農業参入促進協議会)  
戸川 雄介 (農林水産省農林水産技術会議事務局)

---

第1部 有機農業技術の横展開と販路の拡大への課題 (10:15~12:30)

---

座長 佐伯 昌彦 (株式会社マルタ)  
基調講演 「有機農業技術の横展開と販路拡大への課題」(30分) (10:15~10:45)  
谷口吉光 (秋田県立大学)  
事例発表 「有機農業実施農家の取り組みと技術普及への課題」(30分×2) (10:45~11:45)  
澤村輝彦 (施設トマト栽培。肥後あゆみの会、熊本県)  
菊池正晴 (柑橘栽培。菊池農園、愛媛県)  
(休憩) (11:45~11:55)  
質疑応答 (11:55~12:30)  
コメント「有機農業拡大への農業政策」(農林水産省) (5分)

---

(休憩) (12:30~13:30)

---

第2部 実践技術及び最新技術を活用した雑草防除へのアプローチ (13:30~17:00)

---

座長 三浦重典 (農研機構中日本農業研究センター) 趣旨説明 (5分)  
1. 講演 (40分×2)  
①雑草の生態を活用した抑草技術に関する基礎知識 (13:35~14:15)  
小林浩幸 (宇都宮大学)  
②雑草を味方にするイネの有機栽培技術 (14:15~14:55)  
舘野廣幸 (栃木県野木町)  
(休憩) (14:55~15:10)  
2. 最新の研究、技術開発の紹介 (25分×3)  
①米ぬか散布はコナギの発芽にどう影響するのか? (15:10~15:35)  
野副卓人 (元農研機構)  
②AI を活用して難防除雑草を芽生えのうちに発見する (15:35~16:00)  
松橋彩衣子 (農研機構植物防疫研究部門)  
③畑用除草ロボットの開発状況と課題 (16:00~16:25)  
田澤純子 (農研機構中日本農業研究センター)  
3. 総合討論 (16:25~16:55)  
閉会あいさつ 谷口 吉光 (日本有機農業学会) (16:55~17:00)

---

※演題の一部は仮題です。講師など内容は変更になる場合があります(文中敬称略)。

以 上